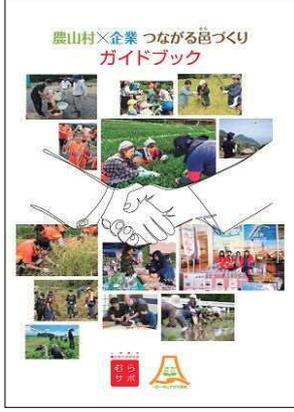


中山間ふるさと水と土基金（棚田基金） 活用事例（R1年度実績）

道府県	活動名
静岡県	農山村×企業CSV活動の促進
岐阜県	棚田保全組織座談会
徳島県	とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業による協働パートナー協定締結及び協働活動の実践
佐賀県	炭山地区 棚田ボランティア支援事業
熊本県	中山間地域サポート推進事業（棚田地域）の調査及び広報

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	静岡県	市町村名	-	基金名	ふる水・棚田基金
活動名	農山村×企業CSV活動の促進				
活動年月日	令和元年度～				
活動主体	静岡県				
協力団体等	ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合（県下35市町）				
活動参加者	静岡県、上記協力団体、一社一村しずおか運動実施企業、むらサポ企業会員 等				
活動目的	急速な人口減少や高齢化のため、活動に際し人材やアイデア等が不足が生じている農山村地域と、企業や大学等の団体が連携することで、企業の強みを生かした地域活動を展開し、持続可能な農山村づくりを推進する。				
活動概要	<p>CSRからCSV（社会貢献+ビジネス）活動への取組移行の潮流を受け、農山村に関心の高い企業（※）との連携を広報やマッチング、場の確保により強化し、農山村の保全・活性化に繋げる活動を拡大、深化する新たな取組を実施する。</p> <p>①農山村×企業連携事例広報用の、優良事例集（手引き）作成 ②連携方法等を紹介するウェブページの作成 ③農山村、企業双方の担当者を集め、マッチングを行うセミナーを開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度延期）</p> <p>（※）本県でこれまで実施してきた「一社一村しずおか運動」協定団体や「しずおか農山村サポーター『むらサポ』」の会員等、農山村での活動に関しアクションをいただいている企業等</p>				
実施状況	<p>《①優良事例集》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名称：農山村×企業 つながる邑づくり ガイドブック ・部数：1,000部（A4版、8ページ） <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲表紙</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲事例（むらサポ）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲事例（一社一村しずおか運動）</p> </div> </div> <p>《②ウェブページ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しずおか農山村サポーター「むらサポ」ホームページを改良 ・連携事例、連携方法紹介ページ、相談用フォーム等を新規追加 (https://www.shizuoka-murasapo.net/cooperation-example/) 				
事業成果	一社一村しずおか運動やむらサポ企業会員と協力するにより、農山村と企業が連携し、企業の強みを活かした様々な取組が行われている。				
連携事業	-				
対象経費	委託費、広報誌デザイン費・印刷費、むらサポウェブサイト運営費等				
総活動費用	749 千円	うち基金からの支出	749 千円	X	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	岐阜県	市町村名	恵那市	基金名	棚田基金事業
活動名	棚田保全組織座談会				
活動年月日	令和元年12月6日(金)				
活動主体	農村振興課				
協力団体等	恵那市栃久保棚田保存会				
活動参加者	棚田保全組織のリーダー、棚田保全活動団体代表者、若い力で元気創出ふるさと支援事業実施大学生、県・市町村職員				
活動目的	「ぎふの棚田21選」組織未登録地区の関係者や今後、棚田保全活動を行おうとする地域の代表者、既に運営が軌道に乗っている棚田保全組織の代表者等が集い、各地域の取り組みの情報交換、現在や将来の課題、インバウンド対応等の意見交換等を行い、棚田保全活動のさらなる活性化を図る				
活動概要	棚田保全組織のリーダーや「ぎふの棚田21選」組織未登録地区の関係者、若い力で元気創出ふるさと支援事業実施団体(大学生)、県・市町村職員が集まり、現地(棚田)に触れながら保全活動方法の検討、組織の立ち上げから運営のノウハウ、各地域での取り組みなどについて意見交換を行った。				
実施状況	<p>○スケジュール</p> <p>午前10時45分から午前11時40分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、フィールドワークなど <p>午後1時から午後2時30分</p> <p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の棚田保全に向けた支援について ・若い力で元気創出ふるさと支援事業の取り組み紹介 ・ぎふの田舎応援隊等の取り組み紹介 ・棚田関係の情勢について <p>午後2時30分から午後15時30分</p> <p>意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネータ：松本康夫岐阜大学名誉教授 <p>○意見交換会での主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積は21haあるが、耕作放棄地は無く、持ち主がきれいに管理されている。高齢化で対応できないようなところは営農組合で対応している ・ボランティアの募集に力を入れているが、自分たちはそれぞれが仕事を持っており、なかなか対応できていない。 ・オーナー制度、石積み塾、炭焼き塾など、幅広い体験メニューをもってやっている。最近では農泊にも取り組んでいる。 ・限界集落に近いところであるため危機感を持っており、どのようにして棚田を含めた地域の環境を守っていくのかを考えている。 ・なぜ棚田を残すことが必要なのかをもう一度考える必要がある。美しい景色を残すという考えだけでは残せない。棚田地域を残すためにはどうすればいいのか。皆で考えていきたい。 				
			現地研修会		
			座談会		
事業成果	各地域での取り組みなどについての意見交換をはじめ、令和元年8月に施行された「棚田地域振興法」について理解を深め、今後の体制方針等についての意見交換も併せて行った。				
連携事業	-				
対象経費					
総活動費用	79 千円	うち基金からの支出	79 千円		

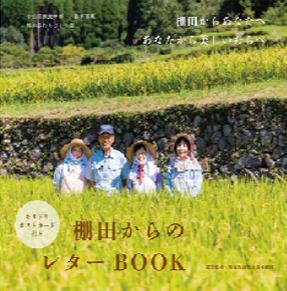
【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	徳島県	市町村名	中山間地域	基金名	棚田基金
活動名	とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業による協働パートナー協定締結及び協働活動の実践				
活動年月日	平成31年4月～令和2年3月				
活動主体	徳島県				
協力団体等	市町村, 集落団体等				
活動参加者	協働パートナー団体（県内大学, 企業, NPO）, 集落住民等				
活動目的	過疎・高齢化の進行によりコミュニティ機能が低下しつつある農山漁村地域を応援することにより、活力を呼び起こし、地域の持つ魅力（景観、伝統文化）や多様な機能（国土の保全、水源の涵養など）を次世代に引き継ぐことを目的に実施する。				
活動概要	<p>1) 第10回「とくしま農山漁村（ふるさと）協働パートナー協定」締結式 農山漁村地域の住民の活動支援を行う意志のある企業、大学、NPO法人と徳島県との間で、「とくしま農山漁村（ふるさと）協働パートナー協定」を締結。 日（時）令和2年1月28日（火） 場 所）徳島県庁 内 容）とくしま農山漁村（ふるさと）協働パートナー協定の締結 締結先）企業、NPO法人等 計3団体</p> <p>2) 縁から絆へ！絆応援し隊事業 これまで県内の企業等を中心に活動を行い、関係人口増加に一定の成果を上げてきたが、中山間地域の過疎化や地域の担い手不足は深刻化しており、このような中山間地域を社会全体でサポートするため、県人会や県内在住の外国人など、徳島県に縁のある人々による協働活動を実施した。 ○協働活動回数：4回 ○参加団体：奈良徳島県人会、徳島県・市町村国際交流協会等連絡協議会、とくしま異文化キャラバン（徳島大学外国人留学生） ○協働活動内容：日和佐八幡神社秋祭りにおいて神輿の担ぎ手支援、八朔の収穫作業、ビッグひな祭り設営準備</p> <p>3) 「協働パートナー」と「ふるさと団体」による協働活動 令和元年度 累計活動日数31日間</p>				
実施状況	 <p>協定締結式</p>		 <p>神輿担ぎ手支援</p>		
	 <p>八朔の収穫</p>		 <p>ビッグひな祭り設営準備</p>		
事業成果	令和元年度は、新たに3団体と協定締結を行い、農山漁村地域での協働活動は31日間実施。				
連携事業	なし				
対象経費	借損費, 旅費, 役務費				
総活動費用	1,291 千円	うち基金からの支出	1,291 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	佐賀	市町村名	伊万里市	基金名	棚田基金
活動名	炭山地区 棚田ボランティア支援事業				
活動年月日	R1.6.9~R1.10.6				
活動主体	すみやま棚田守る会				
協力団体等	-				
活動参加者	ボランティア企業等1社 延べ90人				
活動目的	棚田地域とボランティア企業等の協定に基づく活動を通して棚田の維持保全と地域活性化				
活動概要	棚田での草刈り及び田植え、稲刈り作業の支援				
実施状況	  <p style="text-align: center;">田植え作業</p>   <p style="text-align: center;">草刈り作業</p>				
事業成果	草刈りや田植え、稲刈り等企业ボランティアの協力を得ることにより、これまで地域活動ではできなかった酒米づくりから純米酒「すみやま」の酒造までの取組が実現できた。それにより、棚田地域の住民と企業等のボランティア参加者との間で新たな交流が生まれ、棚田地域の活性化が図られるとともに、棚田米を中心とした地元農産物の販売促進にもつながった。				
連携事業	-				
対象経費	ボランティア企業等と棚田地域が共同で行う保全活動の経費				
総活動費用	104 千円	うち基金からの支出	104 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	熊本県	市町村名	山鹿市他3町村	基金名	棚田基金
活動名	中山間地域サポート推進事業（棚田地域）の調査及び広報				
活動年月日	令和元年（2019年）9月2日～令和2年（2020年）2月21日				
活動主体	県（委託先：株式会社東京制作所）				
協力団体等	町村、番所棚田保全協議会、松谷棚田保存会、山都町棚田復興プロジェクト、下切自然を愛する会				
活動参加者	地域住民				
活動目的	棚田地域で農地等保全・利活用に係る地域住民活動の支援を取り組んでこられた方々の成果や、課題等を調査する。また、地域住民活動に取り組む方や棚田地域に関心がある方へ効果的な取り組み方等を知っていただくため、PR冊子等を作成し広報する。				
活動概要	<p>（1）棚田地域の調査 調査は専門員によるインタビュー取材と撮影。取材地区は次のとおり。 ①山鹿市 「番所の棚田」 ②球磨村 「松谷の棚田」 ③山都町 白糸台地（犬飼・菅）の棚田 ④高森町 下切の棚田</p> <p>（2）PR冊子の制作 広報を行うPR冊子として「棚田からのレターBOOK」を制作。内容は、4団体各地区の活動内容、歴史・地性的特徴、各地区写真を掲載し、ポストカードを冊子内に入れた。</p>				
実施状況	<p>（1）棚田地域の調査 ①山鹿市 「番所の棚田」 2019年9月13日～19日 複数回取材 撮影//2019年8月～10月 現地の地上撮影、空撮を実施 ②球磨村 「松谷の棚田」 2019年9月26日～11月6日 複数回取材 撮影//2019年8月～10月 現地の地上撮影、空撮を実施 ③山都町 白糸台地（犬飼・菅）の棚田 2019年10月10日～11月10日 複数回取材 撮影//2019年8月～11月 現地の地上撮影、空撮を実施 ④高森町 下切の棚田 2019.10.10～20日 複数回取材 撮影//2019年8月～11月 現地の地上撮影、空撮を実施</p> <p>（2）PR冊子の制作 規格 サイズ/A5正方サイズ カラー/全ページ4色フルカラー 製本/中綴じ 紙質/上質マット紙110kg 印刷部数/2,000部</p>   				
事業成果	調査地区について、歴史及び地域性、活動の概要と展望、事業の活用・効果・課題を調査できた。広報冊子は、棚田写真展会場や、行政各機関、県内の「道の駅」をはじめとした観光拠点にて配布し、一般の多くの方に手にとっていただいた。				
連携事業					
対象経費	デザイン制作料、インタビュー及びコピーライティング料、写真撮影料、広報HP制作・管理料				
総活動費用	1,464 千円	うち基金からの支出	1,464 千円	✕	

中山間ふるさと水と土基金（棚田基金） 活用事例（R2年度実績）

道府県	活動名
岐阜県	岐阜の田舎応援事業
京都府	ふるさと発見隊
兵庫県	農村ボランティア活動支援事業
奈良県	農業・農村が持つ多面的な機能の啓発
和歌山県	和みのむら活性化支援モデル事業
長崎県	ボランティアと農山村集落の協働による集落維持活動
熊本県	白糸台地棚田ウォーキング&収穫感謝祭

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	岐阜県	市町村名	揖斐川町、郡上市、 恵那市、飛騨市、 山県市、関市、瑞穂市	基金名	ふる水基金 棚田基金
活動名	ぎふの田舎応援事業				
活動年月日	4月～3月				
活動主体	岐阜県・「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会				
協力団体等	地元農業者等				
活動参加者	ぎふの田舎応援隊登録者				
活動目的	田舎体験を望む都市住民を「ぎふの田舎応援隊」として登録し、人手不足に悩む農村地域での棚田保全活動等とマッチングすることで、農地等の保全及び農村地域への関係人口の増大を図る。				
活動概要	ぎふの田舎応援隊員を対象とした農村地域における営農ボランティア活動				
実施状況	   <p>ヨモギの植付 ゆずの収穫 水路の泥上げ</p>    <p>棚田の稲刈り 藁まき 棚田石積みの除草</p>				
事業成果	計36回の活動に延べ302名が参加し営農活動を支援するとともに、隊員と農村地域との交流促進が図られた。				
連携事業					
対象経費	委託費（応援活動の企画・運営等）、広報費				
総活動費用	5,095 千円	うち基金からの支出	5,095 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	京都府	市町村名	京丹後市	基金名	ふるさと水と土基金 及び棚田基金
活動名	ふるさと発見隊				
活動年月日	宇川小学校（3年生：9月11日（金））しんざん小学校（4年生：10月5日（月））				
活動主体	久僧環境保全組合、宇川小学校、荒山区環境向上委員会、しんざん小学校				
協力団体等	京丹後市農林水産部農林整備課				
活動参加者	小学校、地元自治会、多面的機能支払交付金活動組織、行政関係者				
活動目的	多面的機能支払交付金活動組織と地域の小学校が連携し、講義・現地学習・実習を通じて多くの地域資源を学ぶことで、ふるさとに誇りや愛着を持ってもらえるよう意識醸成を図る				
活動概要	①宇川小学校（田んぼの多面的機能について学習、田んぼ周辺の生き物調査、水質調査） ②しんざん小学校（田んぼの多面的機能について学習、田んぼ周辺の生き物調査、水質調査）				
実施状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>①宇川小学校 採取してきた生き物の同定作業</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>①宇川小学校 活動組織による地域の歴史などの講義</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>②しんざん小学校 府職員による田んぼの多面的機能の講義</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>②しんざん小学校 生き物調査の風景</p> </div> </div>				
事業成果	田んぼが持つ多面的機能について理解してもらうことができ、また実際に田んぼに棲む生き物を調査し触れることで、ふるさとに愛着や誇りを持ってもらうことができたと感じた。				
連携事業	農と環境を守る地域協働活動支援事業（国事業名：多面的機能支払交付金事業）				
対象経費	現地学習のためのガイドブック、書籍など				
総活動費用	10 千円	うち基金からの支出	10 千円		

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	兵庫県	市町村名	佐用町	基金名	ふる水基金 棚田基金
活動名	農村ボランティア活動支援事業				
活動年月日	通年（R2.4.1～R3.3.31）				
活動主体	農村ボランティア事務局（（公社）兵庫県みどり公社（現：（公社）ひょうご農林機構））				
協力団体等	佐用町西新宿地区				
活動参加者	地元住民、農村ボランティア				
活動目的	農村ボランティアが過疎化・高齢化の進む中山間地域集落の農作業応援を行うことにより、農業・農村の維持保全を図る。				
活動概要	事前に広報活動を行いボランティア会員を募り、地域住民と都市住民（農村ボランティア）による集落内遊歩道整備や里山整備、花しょうぶの栽培作業（定植等）、花しょうぶ園の運営等を行った。				
実施状況	<p>遊歩道整備</p>  <p>花しょうぶ栽培</p>  <p>里山整備</p> 				
事業成果	コロナ禍で限られた中での活動であったが、佐用町西新宿地区の活性化に貢献した。				
連携事業	-				
対象経費	農村ボランティア事務局への委託費等				
総活動費用	1,995 千円	うち基金からの支出	1,995 千円		

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	奈良県	市町村名		基金名	ふるさと水と土基金 及び棚田基金
活動名	農業・農村が持つ多面的な機能の啓発				
活動年月日	令和2年7月～9月				
活動主体	奈良県				
協力団体等	橿原市（橿原市昆虫館）				
活動参加者	親子を中心とした来場者				
活動目的	中山間、棚田地域の農業が有する役割とその重要性への理解を深める				
活動概要	中山間、棚田地域の農業・農村の多様な役割を分かりやすく解説したパネルを作成した。橿原市昆虫館において開催（奈良県主催）した「田んぼの水族館in橿原市昆虫館」において展示し、来場する親子を対象に周知をはかった。				
実施状況	 <p>作成したパネルの様子</p>				
事業成果	来場者への意識啓発ができた。				
連携事業					
対象経費					
総活動費用	192 千円	うち基金からの支出	192 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	和歌山県	市町村名	日高川町	基金名	ふるさと水と土基金 及び棚田基金
活動名	和みのむら活性化支援モデル事業				
活動年月日	平成30年5月～令和3年3月				
活動主体	日高川町生活研究グループ美山支部イタドリ部会				
協力団体等	和歌山県林業試験場、和歌山県工業技術センター、(一財)バイオセンター中津、わかやま援農ボランティア(和歌山大学生、大阪市立大学生)				
活動参加者	地域住民、わかやま援農ボランティア				
活動目的	耕作放棄地を活用してイタドリを栽培し、特産品の増産や新商品のPR等を行うことにより地域の活性化を図る。				
活動概要	<p>耕作放棄地をイタドリ畑に整備し、イタドリを増産することでイタドリを用いた特産品「ごんちゃん漬け」を守るとともに、新商品のPRを行うことでイタドリの利用の可能性を広げる。</p> <p>また、イタドリの皮むき体験等のイベントを実施し、都市部の学生との交流を行うことで、地域の食文化をPRし、都市との交流を促進する。</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>イタドリの栽培</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>イタドリの皮むき作業</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>新商品のチラシを作成し、道の駅産直店舗での掲示や通販商品の添付に用いた。</p> </div>				
事業成果	耕作放棄地を活用して、イタドリを栽培することで、特産品の増産や耕作放棄地対策(約21a)に貢献した。また、PRした新商品はホテルのコース料理に採用されるなど好評で、イタドリ利用の可能性を広げることができた。				
連携事業	農林水産業競争力アップ技術開発事業(イタドリ新商品の開発)				
対象経費	委託費				
総活動費用	1,053 千円	うち基金からの支出	1,000 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	長崎県	市町村名	(長崎市)	基金名	棚田基金								
活動名	ボランティアと農山村集落の協働による集落維持活動												
活動年月日	R2. 4. 28～R3. 3. 24 (ボランティアセンターへの委託期間)												
活動主体	中山間地域支援センター(長崎県)												
協力団体等	千々木場集落(長崎市)、ダイワリース(株)、長崎市、長崎県												
活動参加者	千々木場集落(長崎市)、ダイワリース(株)、長崎市、長崎県												
活動目的	農山村集落の保全活動について、県がボランティアセンターに委託し、川下集落、個人、ボランティア、社会貢献活動に前向きな企業等の多様な外部サポーターとの協働による農地等地域資源の保全活動に取り組む集落を支援する。												
活動概要	R2年度は取組み初年度であり、中山間集落と川下企業のニーズ確認、マッチングの可能性、課題の洗い出しを行い、R3年度以降の活動の方向性の確認・検討を実施。 また、試行的に2集落と企業ボランティアのマッチングによる協働活動を実施。 企業ボランティアと農山村集落の協働活動支援のイメージ及びR2年度に実施した協働活動については、以下、実施状況のとおり。												
実施状況	<p style="text-align: center;">ボランティアと農山村集落の共働による集落維持活動事業費 予算額 6,918千円</p> <p>・農山村集落では人口減少、高齢化により、集落の保全活動が困難となっていることから、県がボランティアセンター(NPO法人)に委託し、学生、定年退職者等の個人、社会貢献に前向きな企業等を募集し、農地、農業用水路やため池等の維持管理が困難となっている地域に派遣し、農山村集落の住民との共働による保全活動を実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>事業の概要</p> <p>①学生、定年者等の個人 ②社会貢献に前向きな企業 ③川下自治会 等 多様な外部サポーターとの共働による、農地等地域資源の保全管理に取り組む集落を支援する。 事業実施にあたっては、①～③の各ボランティアと農山村集落間の保全活動内容の調整等を支援する業務をボランティアセンターに委託する。</p> <p>【ボランティアセンターの業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を希望する受入集落との打ち合わせ ・関係市町、県(出先機関含む)との調整 ・ボランティアの募集、調整、派遣 ・ボランティア活動の情報発信 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 30%;"> <p>ボランティア希望者</p> <p>①学生、定年退職者等の個人 ②社会貢献に前向きな企業 ③川下自治会 等</p> </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同活動に取り組む集落数</td> <td style="text-align: center;">2集落(試行)</td> <td style="text-align: center;">11集落</td> <td style="text-align: center;">11集落</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div> <p>【R2年度：ワイヤーメッシュ(鳥獣害対策)の下草刈作業】 千々木場集落(長崎市)×民間企業(ダイワリース(株)) 参加者：集落6名、企業8名、ほか4名</p>						R2年度	R3年度	R4年度	共同活動に取り組む集落数	2集落(試行)	11集落	11集落
	R2年度	R3年度	R4年度										
共同活動に取り組む集落数	2集落(試行)	11集落	11集落										
事業成果	この事業は、ボランティア受入れ集落とボランティア参加者をマッチングし、3年間の共同作業により信頼を築きあげ、中山間地域等直接支払制度の協定参加者となることで、4年目以降はボランティア参加者は集落の一員として交付金の一部をボランティア活動費とするシステムを構築するものである。 成果については、R3年度以降継続して評価・検証する。												
連携事業	中山間地域等直接支払交付金(集落協定)												
対象経費	ボランティアセンター委託費												
総活動費用	4,345 千円	うち基金からの支出	4,345 千円	✕									

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	熊本県	市町村名	山都町	基金名	棚田基金
活動名	白糸台地棚田ウォーキング&収穫感謝祭				
活動年月日	令和元年（2019年）8月1日～令和2年（2020年）1月15日				
活動主体	白糸第一自治振興会				
協力団体等	NPO法人山都のやまんまの会				
活動参加者	熊本市を中心とした都市住民、地元住民				
活動目的	棚田地域の多面的機能の啓発 棚田地域を担う若手世代の人材育成及び地元住民との協働による都市農村交流				
活動概要	都市住民を対象に、白糸台地棚田一帯を実際に巡りながら棚田の有する多面的機能や通潤橋から送られる用水がもたらす恩恵等を説明する棚田ウォーキングイベント等を開催した。				
実施状況	<p>棚田ウォーキングイベントを開催し、犬飼地区の巻き柿やお茶等の農産物や通潤用水の成り立ちと構造、鳥獣害被害と電気柵による対策方法等について説明する等、都市住民に対し、棚田の有する多面的機能等について啓発を行った。 なお、ガイド役は地元の青年部が担うことで、若手世代の人材育成にも繋がった。 また、棚田ウォーキングイベントの終了後は、老人部会によるしめ縄作り体験や女性部による手作り料理のおもてなし、農産物直販マルシェ等、白糸台地の豊かな恵みを都市住民に伝える場として、地元住民と協働で収穫感謝祭を開催した。</p> 				
事業成果	中山間地域が保有する多面的機能の役割について、都市住民の理解促進が図れた。 また、通潤用水の恩恵を受けた白糸台地の棚田ウォーキングが地域資源となり、住民主体の地域づくり・人材育成の活性化に繋がった。				
連携事業					
対象経費	自然景観アドバイザー等への謝金、広告費、イベント実施に係る機材のレンタル料等				
総活動費用	373 千円	うち基金からの支出	371 千円	✕	

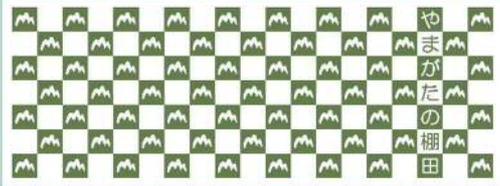
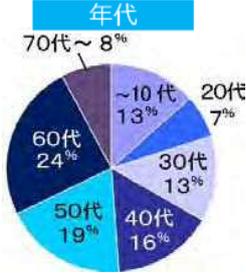
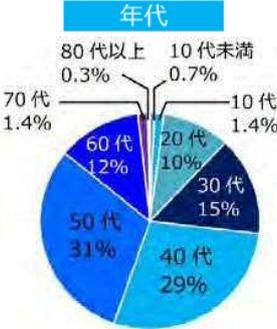
中山間ふるさと水と土基金（棚田基金） 活用事例（R3年度実績）

道府県	活動名
秋田県	秋田の里地里山を守り継ぐプロジェクト事業
山形県	やまがたの棚田スタンプラリー
福島県	「ふくしまの棚田」活性化モデル育成事業
福井県	都市農村交流事業の企画・実施
福岡県	中山間応援サポーター
佐賀県	令和3年度さが「棚田」展（小城市江里山の棚田）
大分県	大分トリニータ×豊のくに棚田サポートくらぶ

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	秋田県	市町村名	県内7市町村	基金名	棚田基金
活動名	秋田の里地里山を守り継ぐプロジェクト事業				
活動年月日	令和3年4月～令和4年3月				
活動主体	秋田県、里地里山認定地域活動組織（8組織）				
協力団体等	里地里山サポーター（企業、地元高校生、一般住民）				
活動参加者	里地里山サポーター（企業、地元高校生、一般住民）				
活動目的	里地里山地域の啓発普及と保全活動				
活動概要	<p>【啓発普及活動】 本県の里地里山が果たしている役割や魅力等を周知するため、PR活動等を実施した。</p> <p>【保全活動】 地域の保全組織と里地里山サポーターによる協働活動（体験活動、交流活動等）を実施した。</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>プロサッカーチームホーム会場 でのプロモーション活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>あきたの美しく豊かな農村づくり写真</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ハサ掛け体験活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地元番楽を通じた交流活動</p> </div> </div>				
事業成果	事業及び活動により県内にある美しい景観や貴重な地域資源を持つ地域の魅力がより多く周知され、認定地域の活性化が図られた。				
連携事業					
14	啓発普及に要する経費（パンフレット等）、活動支援経費（サポーター旅費、活動経費等）				
15	6,626 千円	うち基金からの支出	5,752 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	山形県	市町村名	—	基金名	棚田基金
活動名	やまがたの棚田スタンプラリー				
活動年月日	令和3年7月17日(土)～令和3年10月31日(日)				
活動主体	山形県				
協力団体等	関係する地区の棚田保全団体、棚田地区の市町村、				
活動参加者	スタンプラリーにエントリーした293名(県内外含む)				
活動目的	棚田地域の情報発信強化を図るため、やまがたの棚田カードを配布している地区を対象にスタンプラリーを実施し、県内外からの来訪者の獲得による棚田地域の振興及び交流人口の拡大を図る。				
活動概要	令和3年度に、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策及び若年層の新たなファンづくりのため、初のスマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーを実施。スタンプを3個以上取得すると特典として景品の抽選に応募でき、アンケートに答えて棚田地域の米や特産品等が当たる。(令和元年から令和2年までは、現地にスタンプを設置し応募ハガキで実施)				
実施状況	  <p>やまがたの棚田オリジナル手ぬぐいを作成 【コンプリート賞：棚田全地区制覇の方にもれなくプレゼント】</p> <p>R3「やまがたの棚田スタンプラリー」チラシ</p>    <p>R1応募ハガキによる 応募数：187通</p> <p>R2応募ハガキによる 応募数：113通</p> <p>R3スタンプラリーによる エントリー数：293名</p>				
事業成果	実際に現地を訪れてもらうことにより、中山間・棚田地域の持つ課題や地域の人々によって守られている美しい景観を直に感じてもらうことができた。また、デジタル化により若年層を中心とした多くの方に棚田を知ってもらうことができ、担い手や移住者、地域外協力者にもつながる取組みとなった。				
連携事業	東日本高速道路株式会社及びコンビニ等との連携広報(チラシ設置)				
対象経費	報償費、一般需用費、使用料				
総活動費用	659 千円	うち基金からの支出	659 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	福島県	市町村名	石川町	基金名	ふるさと水と土
活動名	「ふくしまの棚田」活性化モデル育成事業				
活動年月日	令和3年6月21日～令和4年1月11日				
活動主体	一般社団法人ひとくらす				
協力団体等	中山間地域直接支払制度集落協定組織				
活動参加者	—				
活動目的	棚田を活用した地域活性化				
活動概要	<p>棚田米のブランド化（米袋のパッケージデザイン）、棚田米を利用した日本酒の開発（酒造と酒のパッケージデザイン）、棚田に関連した広報活動等の実施。 （なお、本県では、棚田を核とした地域振興のモデル事例をつくり、波及させていくため、棚田を活用した地域活性化のモデルとなる取組に対する支援を令和3年度から新たに実施しており、当事例のほか1地区の活動を支援した。）</p>				
実施状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>棚田の風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>完成した日本酒</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>完成した棚田米（米袋）</p> </div>				
事業成果	棚田米のブランド化と6次化により、所得向上や棚田の知名度アップにつながり、また、棚田に関わる人が増加することで、棚田の継続的な維持・保全と地域活性化につながっている。				
連携事業					
対象経費	旅費、需用費、役務費、委託料				
総活動費用	512 千円	うち基金からの支出	500 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	福井県	市町村名	県内全域	基金名	棚田基金
活動名	都市農村交流事業の企画・実施				
活動年月日	4月～3月(通年)				
活動主体	(公社)ふくい農林水産支援センター、ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク				
協力団体等	ふくいエコ・グリーンツーリズム・ネットワーク会員				
活動参加者	グリーンツーリズム活動に関心のある都市住民等				
活動目的	都市農村交流の推進による交流人口の増加				
活動概要	県内外へ福井県の農泊に関する情報を発信し、都市と農山漁村のコーディネートを行う				
実施状況					
事業成果	コロナ禍の中、マイクロツーリズムとして県民に県内の農山村地域を訪れてもらい、農作業体験等を楽しむことにより、地域住民との交流が進んだ。				
連携事業					
対象経費	取組みをPRするための賃金、事務費等				
総活動費用	8,192 千円	うち基金からの支出	8,192 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	福岡県	市町村名	①②八女市、③那珂川市、④⑧⑩苅田町、⑤⑪福岡市、⑥⑨上毛町、⑦東峰村	基金名	ふる水・棚田両基金
活動名	①～⑪中山間応援サポーター、⑫～⑭ちゅう・さん・かんマルシェin県庁				
活動年月日	①5/8、②5/16、③6/17・6/22、④8/28、⑤9/5、⑥9/12、⑦10/23、⑧11/14、⑨11/27、⑩1/15、⑪2/25、⑫7/14、⑬10/13～10/15、⑭12/20～12/2				
活動主体	福岡県				
協力団体等	①②NPO法人「がんばりよるよ星野村」				
活動参加者	中山間応援サポーター（ボランティア）及びNPO法人メンバー				
活動目的	中山間地域の農地及び集落機能の維持のため、中山間地域の住民と都市部等の住民との交流を推進し、中山間地域の保全及び活性化を促進する。				
活動概要	<p>①～⑪都市住民等を対象として中山間地域でのボランティア活動に従事する「中山間応援サポーター」を組織し、集落等から要請のあった各種共同活動の支援を行い、農地保全と地域の活性化を図る。</p> <p>①八女市星野村：シャクナゲの花がら摘み ②八女市星野村：棚田の草刈り ③那珂川市南畑：やまももの収穫 ④苅田町等覚寺：そばの種まき ⑤福岡市早良区脇山：茶園管理補助（茶の木の剪定） ⑥上毛町西友枝：竹の伐採、竹とうろう作り ⑦東峰村：棚田ライトアップイベント準備 ⑧苅田町等覚寺：そばの収穫 ⑨上毛町西友枝：「とうろう祭り」運営補助 ⑩苅田町等覚寺：いくりの木の剪定 ⑪福岡市早良区脇山：茶園管理補助（茶の木の剪定、イノシシ穴の埋め戻し） ⑫～⑭中山間地域並びに中山間応援サポーターのPRのため、「中山間応援サポーター」が農作業などの支援した地域の特産品販売会「ちゅう・さん・かんマルシェin県庁」を福岡県庁1階ロビーで開催。</p>				
実施状況	<p>【主な実施状況を紹介】</p> <p>③那珂川市南畑：6/17・6/22 やまももの収穫は長い竿で揺らして実を落とします。10月と12月に南畑地区の住民と福岡女子商業高校の生徒がやまももジャムをはじめとしたやまももの加工品を県庁ロビーで販売しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>やまももの収穫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>県庁ロビーでの販売</p> </div> </div> <p>⑥⑨上毛町西友枝：9/12 竹の伐採・竹とうろう作り、11/27 竹とうろう祭りの当日準備。竹とうろう祭りを飾る竹とうろう作りのため、竹の伐採からお手伝いをしました。昼食に提供された新米おにぎりをきっかけに県庁での販売会、祭りの準備への参加に繋がりました。祭り当日は竹とうろうを並べたり、集落の方と餅つきを行いました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>竹の伐採</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>竹とうろう作り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>集落の方と餅つき</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>竹とうろう作り</p> </div> </div>				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑪参加者200名。都市圏住民（サポーター）が獣害など中山間地域の現状を間近にしたことでサポーター活動の重要性の認識が深まった。 ・⑫～⑭県庁で販売会を開催したことで集落と都市部住民との交流、地域の魅力を伝える機会となった。活動に参加したサポーターも訪れ、ボランティア活動の成果（収穫したやまももの加工品やそば粉など）を見ることができて感動した、今後も頑張りたい気持ちになったと今後の参加への意欲や地域への愛着に繋がった。 				
連携事業	—				
対象経費	参加者のボランティア活動保険料、コピー代等消耗品費等				
総活動費用	838 千円	うち基金からの支出	838 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	佐賀県	市町村名	小城市	基金名	棚田基金
活動名	令和3年度さが「棚田」展（小城市江里山の棚田）				
活動年月日	令和3年9月19日（日曜日）				
活動主体	佐賀県				
協力団体等	—				
活動参加者	—				
活動目的	小城市小城市江里山の棚田で開催される「ひがん花まつり」において棚田の役割や県内の棚田情報などをパネルで展示・紹介し、県内棚田・農村地域のPRや維持保全に関する広報、普及啓発活動を行うため。				
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田紹介パネル等の展示 県が所有するパネル及び棚田ネットワーク会員から提供を受けたパネルを展示。 ・パンフレットの配布 さが棚田だより「つなぐ」、佐賀の棚田等の各パンフレットを配布。 ・さが「棚田」アンケートの実施 棚田保全活動に関するアンケートを実施。 ・缶バッジの配布 来場者に棚田ネットワークのロゴ及び江里山の棚田の缶バッジを配布。 ・棚田カレンダー2022の配布 アンケート回答者に棚田カレンダー2022を配布。 				
実施状況	 <p style="text-align: center;">ブース内の様子</p>  <p style="text-align: center;">棚田展の様子</p>				
事業成果	会場には家族やウォーキングイベントの参加者など多くの方が訪れ、さが「棚田」展に足を運んでくれた。また、さが「棚田」アンケートには102名の方が回答していただき、棚田の現状や問題を理解してもらうことができた。				
連携事業	—				
対象経費	令和3年度さが「棚田」展（小城市江里山地区）会場設営業務委託				
総活動費用	44 千円	うち基金からの支出	44 千円	✕	

【様式6】ふるさと水と土基金・棚田基金活用事例

道府県名	大分県	市町村名	—	基金名	棚田基金
活動名	大分トリニータ×豊のくに棚田サポートくらぶ				
活動年月日	令和3年11月7日				
活動主体	大分県				
協力団体等	大分トリニータ				
活動参加者	ブース来場者2000名以上（アンケート回答数：約860）				
活動目的	棚田地域のアピールや保全活動への参加促進				
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 「大分トリニータ」のホームグラウンド（昭和電工ドーム）で、県内の棚田地域や棚田保全活動の普及・啓発のPRブースを出店した。 「大分トリニータ」×「豊のくに棚田サポートくらぶ」の初コラボ企画として、先着2,000名の方にオリジナル軍手を配布した。 さらに、アンケートに答えた方の中から抽選で、オリジナルタオルマフラーをプレゼントした。 				
実施状況	 <p>PRチラシ</p>		 <p>配布状況</p>		
	 <p>オリジナル軍手</p>		 <p>ブース状況</p>		
事業成果	<p>今回のアンケートは、国が実施した「棚田に関する意向調査」と質問事項を同じにすることで、国のアンケート結果と比較することができるように工夫した。アンケート結果は、862人から回答を頂き、約9割の人が棚田地域に好感を持ち、県民の棚田への意識が全国より約7%高いことが分かった。</p>				
連携事業	なし				
対象経費	PRグッズ製作費、ブース出店料				
総活動費用	964 千円	うち基金からの支出	964 千円	✕	